



◇指導方法

- ①提示された身近な食品や日用品の広告の切り抜きから、自分の買いたい物を選び、プリントに貼って品名を書く。(1回目)
- ②広告の値段をプリントに書いて、読む。
 - ・値段が読めるように数字を書く枠の下にひゃく・じゅう・えんと記入しておく。
- ③プリントにお金の絵をかき。
 - ・百、十、一の位ごとに十個のマス目を作り、お金の絵の見本をかいておく。
- ④金種別マス目カードに、実際のお金を財布から出して並べる。
 - ・プリントと同じ形式のカードを用意する。
- ⑤2回目は、教師が依頼した品物の切り抜きをプリントに貼り、1回目と同じ方法でやる。
 - ・本人がつまずきそうな品名や値段を選ぶ。
 - ・慣れてきたら、お金の絵をかかずに直接金種別マス目カードにお金を並べる。
- ⑥自分の買った物を、文に書いてまとめる。
 - ・わたしは、 と をかいました。

◇指導のねらい

- ・食品や日用品等、身近な品物の名前を片仮名やひらがなで書くことができる。
- ・3桁までの値段を読み、実物のお金を出すことができる。
- ・自分の買った品物を、文で書くことができる。

◇指導の評価

- ・平仮名や片仮名が不確実な生徒が、広告の中から自分の好きな物を選べるということで、品名を書こうとする意欲が高まった。また、選んだ物についての会話をしながら学習できることで、意欲が長続きした。
- ・値段を読む補助として、ひゃく・じゅう・えんと記入しておくことで、自信がなかった生徒が確実に言えるようになった。
- ・値段を見ても、どのお金をいくつ出すのか分からなかった生徒が、お金の絵をかいたり金種別マス目カードにお金を並べたりすることによって、分かるようになってきた。
- ・自分で文を書くことが難しい生徒だが、いつも同じパターンに当てはめ、学習のまとめとして書くことで、一人で書くことができるようになった。